

●漁況情報

- 6月に入って、長井町漁協の大型定置網に8日にワラサ7t、サワラ1.5t、9日と20日に2~3kg物のサワラ3tが入網しました。これまで漁が少なかったので久々の好漁となりました。
- 6月27日、横須賀市東部漁協 横須賀支所浦賀出張所の臼文丸さんでは、タコが盛漁になっています。漁獲されるサイズも2キロサイズの大型のものが60匹/日ほど漁獲されており、今後も豊漁が続くことを期待していました。



茹であがった大型サイズのタコ

●浜の話題

- 6月1日、小田原藻場再生活動組織がカジメ母藻礁4基を江之浦沖に投入しました。相模湾試験場が人工培養した早熟カジメを海底に設置することで、豊かな海の回復を目指します。当日はテレビ局や新聞各社が取材に訪れ、その様子が広く報道されました。

カナロコ掲載記事 <https://www.kanaloco.jp/news/economy/article-915147.html>



母藻礁設置作業の様子



食害防止柵内へのカジメ取り付け

- 6月7日、横須賀市大楠漁協は、釣り具メーカーである(株)ヤマリアと(公財)日本釣振興会の協力の下、地先の適地にアオリイカ産卵礁を設置しました。相模湾ではアオリイカは重要な水産資源ですが、磯焼けに伴い海藻等の産卵基質が枯渇しており、長井・葉山・小坪地区でも産卵礁を設置し、アオリイカの産卵が確認されております。

- 6月7日、鎌倉漁協で「鎌倉ハマグリ部会」の臨時総会を開催しました。ハマグリ資源の更なる増殖を目的とした当会の発足から2年が経ち、貝桁漁で放流部金を積立て、漁獲個数の4倍の種苗放流を実践してきた所、鋤簾でも商売ベースの漁がありました。担当普及員が更なる資源増殖を図る「ハマグリ資源管理・増殖指針」について説明し、鋤簾の漁獲物にも放流歩金設定することや、漁獲圧を下げるための漁場のローテーション、産卵に寄与しない大きさの制限等について協議・決定し、再生産に加えて「獲って4倍撒いて更に増やす！」理想的な資源増殖管理スタイルが構築されました。



「鎌倉ハマグリ部会」臨時総会の様子

- 6月8日から9日かけて、小田原市漁協青年部は視察研修のため京都府に行きました。同部会員7名が参加し、舞鶴市アサリ組合では海上に設置されたアサリ養殖筏で垂下養殖について、宮津市の海洋センターではアカモクの養殖方法について、説明を受けました。説明後は熱心に質問をし、他県の養殖現場を知るとてもよい機会になったようです。



アサリ養殖筏での見学



アカモクについて講義を受ける様子

- 6月9日、長井町漁協に横須賀市立神明中学校の1年生70名が、海の環境についての校外学習で訪れました。当日は、副組合長の儀兵衛丸、長井大型定置網、刺網・タコかご漁等の房竹丸と白鷹丸、(株)長井水産社長が、海の環境や長井の漁業と地魚について説明し、中学生は興味深く聞いていました。



当日の様子

○ 6月14日、かながわ労働プラザで漁業士会第二回役員会が開催されました。会議では漁業士研修会について協議するとともに、8月2日に2年ぶりに開催される関東東海ブロック漁業士研修会（Web会議）の協議内容及び参加者について協議しました。また、7月18日（月）に開催される就業支援フェア2022 東京（浜松町貿易センター）に漁業士会から1名と担当普及員の2名が参加する旨の報告がありました。

○ 6月16日、小田原市漁協遊漁船部会は小田原沖の3地点に簡易浮魚礁を設置しました。この魚礁は回遊性魚類の蛸集を回り、新しい釣り漁場を造成することを目的に毎年実施しています。カツオやキハダの蛸集を期待したいところです。



浮魚礁を作る様子



設置準備の整った浮魚礁資材



浮魚礁投入の様子

○ 6月17日、長井町漁協 トラフグ延縄グループ福会に福島県のトラフグ底延縄漁業者が視察に訪れました。当日は長井の浮延縄について視察し、一方の長井は底延縄を営んでいなかったため、双方にとって有益な情報交換となりました。当日は、今年から底延縄によるトラフグ調査を予定している、栽培推進部のトラフグ担当研究員と調査船「江の島丸」船長らも立会い、トラフグ延縄操業の漁具や漁場選定のポイント等について情報収集しました。



双方にとって有益なトラフグ延縄（浮縄・底縄）についての情報交換となりました

○ 6月17日、小坪漁協で、葉山・小坪・鎌倉地区合同の、カキ養殖勉強会を開催しました。当日は、(株)リブルの牡蠣養殖に精通した理学博士を講師に迎え、葉山4名、小坪5名、鎌倉2名、計11名の漁業者が参加し、カキ養殖のポイントについて学びました。品質並びに成長が良いとされる乾湿式のカキ養殖に加えて、相模湾側では9～10月の台風により筏設置が困難なため、11月から4月にかけて張立てるワカメ筏で、大き目の中間育成種苗（3cm）を用いた、短期養殖試験の試行を検討することになりました。



勉強会の様子 シングルシードの牡蠣殻（右 張付かない分、殻の膨らみがあり実入りが良くなる）

- 6月21日、鎌倉漁協漁業研究会所属若手漁業者は、アワビ種苗（漁協 30 mm 500 個、（公財）相模湾水産振興事業団 25 mm 6千個）を地先の適地に放流しました。生残率を高めるため、漁業者及び普及員が素潜りで、海藻等が繁殖して隠れ場となる好適な場所を見極め放流しました。同日、長井町漁協潜水部会は、同漁協のサザエ 3,500 個、（一財）横須賀市西部水産振興事業団 6 千個、（公財）県栽培漁業協会のトコブシ 5 千個を地先の適地に放流しました。

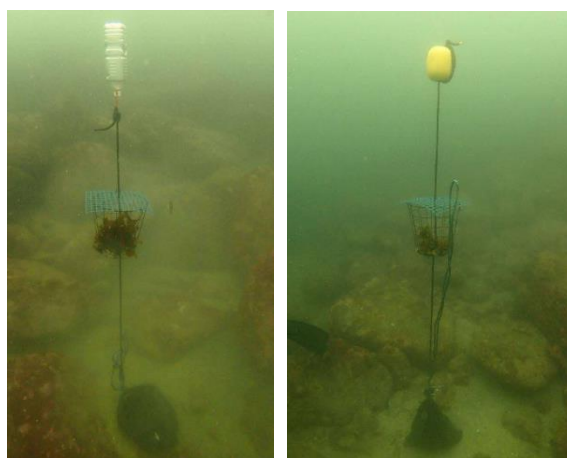


鎌倉漁協漁業研究会の種苗放流の様子

- 6月23日、三和漁協城ヶ島支所では三浦市の助成を受けてサザエ種苗（殻高20 mm以上）4 万個を地先の適地に放流しました。島周辺ではアイゴによる磯焼けが見られている海域もありますが、藻場の減少を防ぐため今年も7月1日から刺網による駆除活動を開始しています。今年はこれまで尾叉長約30 cm程度の小型のアイゴが多い傾向が見られていますが、駆除活動を継続していくことで放流したサザエやアワビの生き残りが少しでもよくなることを期待したいと思います。
- 6月23日、江之浦藻場再生組織がカジメ簡易母藻礁 10 基を設置しました。6月1日に設置した母藻礁と同様に展開することで、藻場の再生を期待したいところです。



簡易母藻礁投入の様子



海中の簡易母藻礁

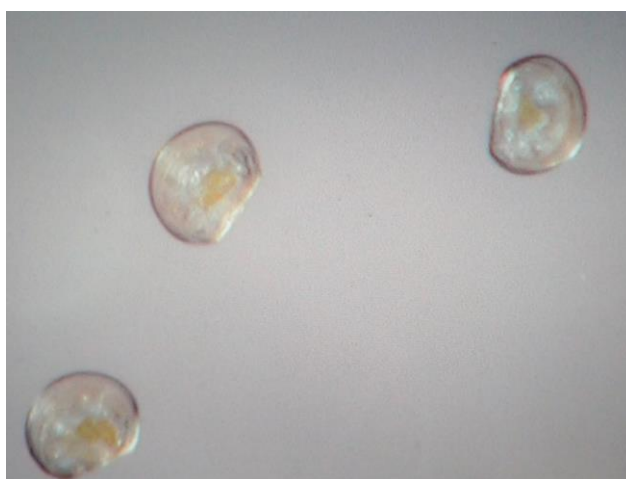
- 6月25,26日、第2回 LOVE OCEAN〜リビエラ湘南ビーチクリーン&シンポジウム〜がリビエラ逗子マリーナで開催されました。26日のシンポジウムでは、小坪漁協大竹組合長が「キャベツウニとしらす漁」、藤沢市漁協葉山組合長が「ハマグリ資源復活〜湘南はまぐりブランド化」、当センター所長が「キャベツウニと早熟カジメによる磯焼け対策」について発表されました。

掲載サイト https://www.riviera.co.jp/event/sustainability/beachclean_202206/index.html

- 6月29日、7月7日、藤沢市漁協は、チョウセンハマグリ（ハマグリ）の採卵試験を行いました。両日とも、残念ながら放精・放卵を観察することはできませんでしたが、7月7日の採卵試験終了後に水産技術センターの種苗生産施設でさらに強い加温刺激をあたえたところ、採卵に成功し、7月12日現在、同センターで孵化した幼生を飼育中です。技術的課題は残りますが、漁業者の資源管理に対する意識が一層高められています。



ハマグリ採卵試験（6月29日）



ハマグリ幼生（7月12日、約0.15mm）

- 6月30日、横浜市漁協 金沢支所において、地元の金沢小学校（5年生80名）と関東学院六浦小学校（5年生29名）によるヒラメの放流体験（60mmサイズ 6千尾）が、八景島の地先で行われました。参加した小学生たちは、漁業者から放流開始の指示が出されると、バケツに入った稚魚を歓声を上げながら、丁寧に放流していました。



小学生によるヒラメ放流の様子

- 7月2日、江の島片瀬漁協は、水産多面的機能発揮対策事業の江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクトによる活動で、海底清掃及びカジメの生育状況を確認しました。ごみは、台風前なので量は少ないとのことでしたが、たくさんの釣り具が目につきました。カジメは、過去の台風で壊滅した藻場が少しずつ回復する様子が見られたとのことでした。



海底清掃の様子



回収された釣り具

●お知らせ

3年ぶりに「小田原みなとまつり」が開催されます。実施日時は8月7日（日）午前9時から午後4時の予定です。新型コロナウイルス感染症対策を講じ、漁船への乗船や、魚に触れることができるイベントなどを実施する予定です。詳しくは小田原市ホームページをご覧ください。

小田原市 「第30回小田原みなとまつり」案内ページ

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/municipality/industry/fisher/event/minatomaturi-220807.html>